

秋田県市町村未来づくり協働プログラム

湯沢市プロジェクト「資源活用型ゆざわ地域づくり推進プロジェクト」における 事後評価調書

1 プロジェクトの目的

ジオパーク認定を契機として、湯沢市の自然環境や地質・地形、歴史・文化、特産品等の地域資源をまるごと活用した地域づくりを進めるとともに、市民のあらゆる世代が地域を支える「人づくり」を通じて、地域への誇りを高め、おもてなしの心あふれる「湯沢らしさ」を広く発信するとともに、交流人口の拡大による地域活性化を図るため、本プロジェクトを実施する。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	市町村総事業費 (千円)	うち交付金(千円)
平成24年11月6日	H24～H28	533,345 (448,570)	200,000

※市町村総事業費欄の()内は計画値

【プロジェクトを構成する事業】

○湯沢市事業群

事業名	総事業費 (千円)	うち交付金 (千円)	備考
まち歩き拠点施設の整備等	393,625	168,500	H25～H28
歴史・文化の学びの場づくり	44,076	16,000	H24～H28
ジオ巡りを推進する基盤づくり	95,644	15,500	H24～H28
計	533,345	200,000	

○県事業群

事業名	総事業費 (千円)	備考
地域づくり活動の支援	648	
自然体験型教育旅行の実施支援	2,010	
ジオパーク情報の発信	1,597	
計	4,255	

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H23 年度)	目標値 (H29 年度)	実績値 (H29 年度)	達成率
ジオガイドの養成数(累計)	0 人	60 人	65 人	108%
ジオガイドの利用者数	0 人	2,500 人	1,492 人	60%
ジオパーク関連の主要施設利用者数	95,000 人	105,000 人	104,934 人	100%

4 経済波及効果分析等

湯沢市「資源活用型ゆざわ地域づくり推進プロジェクト」における経済波及効果は、①ハード事業費支出による効果（6 億 800 万円）、②ソフト事業費支出による効果（7,900 万円）、③プロジェクト成果による効果（5,100 万円）を合わせると、合計 7 億 3,900 万円であったと推計される。

経済波及効果の合計

（単位：百万円）

	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	総合効果
①ハード事業費支出による経済波及効果	397	120	92	608
②ソフト事業費支出による経済波及効果	55	13	11	79
③プロジェクト成果による効果	34	11	6	51
合計	485	144	109	739

※表中の数値は表示単位未満を四捨五入しているため合計値は一致しない。

5 その他参考となる事項

○満足度調査の結果

平成 30 年度市民満足度調査によると、「ジオパークの普及促進と調査・研究の支援」においては、「満足」及び「やや満足」の計は 31.4%で前年比 8.3%上昇しており、逆に「やや不満」及び「不満」の計は 8.6%で前年比 14.0%低下していることから、ゆざわジオパークの推進活動が、市民に浸透してきている結果となっている。

また、「湯沢市への呼び込みとにぎわいの創出」に関しては、「満足」及び「やや満足」の計は 31.2%で前年比 5.8%上昇しているが、「やや不満」及び「不満」の計が 24.5%と依然高い状況にある。

○観光入込客数等の推移

平成 24 年と平成 29 年の比較では、年間宿泊者数は、宿泊施設の廃業等により 11 万 5 千人から 10 万 4 千人に減少している一方で、全国的に高まっているインバウンド需要の波及もあり、外国人宿泊者数は 238 人から 1,580 人に大幅に増加している。また、観光施設入込客数は、ジオガイドが常駐する観光案内所での情報発信等による効果もあり、41 万人から 52 万人に増加している。

○日本ジオパークネットワークの再認定について

日本ジオパークネットワークの認定制度は、4 年毎に再認定審査があり、「ゆざわジオパーク」は、平成 24 年度に新規認定を受け、平成 28 年度の審査において再認定された。特に、子どもを含めた市民の積極的なジオパーク活動への参加や、ボトムアップ型の活動の定着化

が評価されている。また、平成 28 年度のジオパークの活動内容を評価する「ジオ活動状況チャート（（一財）地域経営推進センター）」において、ゆざわジオパークが全国 44 ジオパーク中第 5 位にランキングされた。

6 民間アドバイザーの意見（秋田大学 名誉教授 白石 建雄氏）

（１）ジオパーク推進への更なる市民参加

ゆざわジオパークは、市民を巻き込んだ多面的な活動を展開しており、再認定審査でも高く評価されている。最近話題になった小学 5 年生の認定ジオガイドの誕生は、市民参加の成果の現れであろう。一方で、ネットに不慣れな高齢者や地域外の人にとって、ゆざわジオパークの発信力はそれほど大きくはない。マスメディアをもっと巻き込んだ取組を増やす工夫等が必要と考える。また、60 人以上の認定ジオガイドの存在は大きなマンパワーであり、各地の大小様々な集いの場にジオガイドの姿が見られるようになれば、市民参加はさらに促進されると考える。

（２）ユネスコ世界ジオパーク認定と市内観光における地熱資源の活用

ユネスコ世界ジオパーク認定に向けては、まずはコンセプトの確立が重要である。少なくとも 2 つの課題が挙げられる。一つは、ここが世界で唯一（オンリーワン）のものであること、そして関係者及び市民の合意を得ることである。もう一つは、国連が提唱している「持続可能な開発目標（SDG s）」にどのようにアプローチしているかを明確にすることである。人口減少が急速に進行する中、新たな「持続可能な地域社会」を目指すトップランナーの自覚を持って取組を進めてほしい。また、再生可能なクリーンエネルギーの開発は SDG s のターゲット（達成基準）の一つであり、この地で大規模地熱発電所が稼働することは素晴らしいことである。ジオパークとしても大地の恵みの観点から、例えば融雪設備への電力供給など、将来的に、地域においてエネルギー自給を視野に入れた施策の展開が期待される。

（３）ジオツーリズムによる地域活性化

人口減少、少子・高齢化、若者の流出などにより、「地方」の地域社会はどこも疲弊しているが、人はそこで生き、暮らしている。この「生活」を大切にする、そのための住民の協働の力が、「活性化」の当面の指標と考える。ジオツーリズムがその「協働の力」に加えて、来訪者との交流による人的刺激、経済的効果をもたらすのであれば、それは大きな成果と言える。

7 全体評価

プロジェクト事業については、概ね計画どおりに実施することができた。

「まち歩き拠点施設の整備等」では、中世の山城である湯沢城址の散策路や鑑賞池等の整備のほか、桜の名所で知られる前森公園への遊具や芝生広場等の整備によって、子どもから大人まで散策や健康づくりに利用されているほか、地域住民が主体となった「公園まつり」や若者グループによる「ダンスコンテスト」などの新たな交流の場が創出されている。一方で、商店街の衰退等により中心部の活力低下に歯止めがかかっていないほか、外国人観光客数は増加しているものの観光入込客数や年間宿泊者数の大幅な増加にはつながっておらず、地域の賑わい創出には至っていない。

「歴史・文化の学びの場づくり」では、明治時代の洋風建築物で、県指定文化財である旧雄勝郡会議事堂内の議場柵の復元やトイレのバリアフリー・洋式化を行うとともに、年間を通じた七夕絵どうろうの展示等により、来場者数は増加している。また、旧高松小学校をゆざわジ

オパークの拠点である展示施設「ジオスタ☆ゆざわ」にリニューアルし、縄文時代の集落跡である「長蓮寺遺跡」から出土した土器・土偶や、酒処湯沢の貴重な酒造用具、豊富な地熱エネルギーを活用した山葵沢地熱発電の様子などを紹介している。また、市内各地での各種講演会や講座の開催、教育用教材や小中学生用副読本の作成を行い、ジオパーク活動の普及啓発と担い手の育成を図ってきたことが、市民満足度調査における満足度の向上という形で成果が現れてきている。

「ジオ巡りを推進する基盤づくり」では、官民一体でジオパーク活動を推進する湯沢市ジオパーク推進協議会において、ジオサイトの誘導看板や解説板の設置、見どころを紹介するマップやパンフレットの作成、ジオツアーの企画や学術的な調査等に取り組んできた。また、ジオガイド養成講座等を通じ、湯沢市に県内初の小学生ジオガイドが誕生するなど、市民を巻き込んだジオパーク活動が展開されている。

8 今後の推進方針

民間アドバイザーの意見や全体評価を踏まえ、次のとおり推進するものとする。

(1) 交流人口の拡大による湯沢市の活性化

全国に誇る酒・稲庭うどん・三梨牛・温泉や、大地のエネルギーを感じるジオスポットなど、湯沢市には観光客を十分に満足させることができる素材が揃っており、これらを有機的に連携させ、積極的に情報発信することが大切である。

例えば、良質で豊富な湧水を使って干しうどんを作った稲庭うどんの歴史や、数百万年前の火山活動によって日本有数の院内銀山が生まれ、巨大な鉱山町の需要拡大に伴って湯沢の酒造りが発展してきたことなど、地域資源にストーリー性を持たせながら発信することによって、国内外からの誘客促進につなげていく。また、「七夕絵どうろうまつり」や「犬っこまつり」などの伝統行事に加え、「全国まるごとうどんエキスポ」や「ゆざわの休日」のような新たなイベントによる賑わい創出を促進し、交流人口の拡大を図っていく。

(2) ユネスコ世界ジオパークを視野に入れた活動の強化

ゆざわジオパークの目指す方向性は、ユネスコ世界ジオパークの認定を受け、様々な国や地域との交流が盛んになっている姿であり、その実現に向けた意識と課題を市民と共有し、取組を進めていく必要がある。このため、ジオパーク活動について、幅広い年齢層に分かりやすくアピールできるパブリシティの活用等により市民への情報発信を強化し、地元への誇りや愛着を深めるとともに、「地熱」をアピールポイントとした「ユネスコ世界ジオパーク」への認定に向け、専門家とともに今後の具体的な取組を「アクションプラン」として整理したうえで、市民一丸となったジオパーク活動を更に推進していく。

【プロジェクトチーム構成員】

湯沢市	企画課、観光・ジオパーク推進課、都市計画課、教育委員会生涯学習課
県	観光戦略課、観光振興課、道路課、教育庁総務課、教育庁義務教育課、雄勝地域振興局、地域の元気創造課